

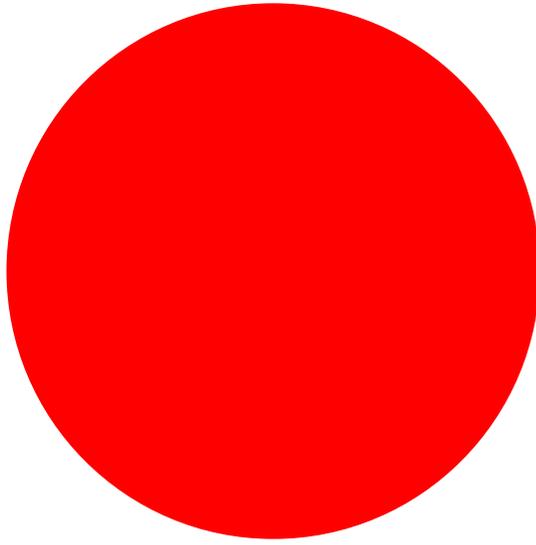
第 10 號
 月 1 回 發 行
 ひの心を継ぐ會
 〒799-1336
 住所:愛媛縣西條市
 上市甲 720-1

綱 領

一 私達は明德を明らかにします
 一 私達は國家の鎮護となります
 一 私達は大和世界を建設します

明けまして

お芽出たうございます



平成三十一年己亥元旦

ひの心を継ぐ會

会長 三浦 夏南

事務局一同

神道(四) (大和世界の建設) 竹葉 秀雄
 古事記

宇宙の創始

天地の初發の時、高天原に成りませる神の名は、天之御中主神、次に高御産巢日神、次に神産巢日神、此の三柱の神は、竝獨神成り坐して、身を隠したまひき(隠り身なりき)。次に國稚く、浮脂の如くして、久羅下那洲多陀用弊瓊時に、葦牙の如萌え騰る物に因りて、成りませる神の名は、宇麻志阿斯訶備比古遲神、次に天之常立神、此の二柱の神も獨神成り坐して、身を隠したまひき。
 上の件五柱の神は別天神

北極上空

羽田は、風吹き、雨降り、電光り、雷はためいてゐたが、私の乗るジェット機は、下界のこれらの諸現象を一氣に截つて、一萬メートルの上空にのぼる。天澤雷風水山地は地上での現象であり、乾兌離震巽坎艮坤はその性情である。ここは、太易、太初、太始、太素の太虚太清世界。雲は白雪の如く層をなして下界を蔽ひ、空は青く澄明無限にして清浄の世界である。機は微動だになく、大静寂の中を行

く、人間は地上にあつて、天上界を想像し、天女を描き、羽化登仙の境を思ふたが、その世界は確かにあつた。

わが身は、今、その神仙と化して、アラスカの空を飛び、機首を北にとつて北極に向ふ。茶褐色の荒涼たるアラスカの山、未だ開かれざるうらがなしい山の色である。

ステューワーデスは、北極圏に入つたことを告げる。

私は、此度の旅に於て、是非とも北極の上にとつて、北廻りを志望し、幸ひ S A S の機に乗ることが出来たのである。北極圏に入つたとの聲に私の心は緊張してくる。

地軸は、北から南に貫いてゐる氣がするのである、太虚の中に太極の一點生ず。(太虚太極太一など同じであるが、ここではその一點を特に太極として言ふ)。この太極の一點を北の極として地球は存する。神ここに在して南面し給ふのである。ここは正なる極である。その地球太極の坐の上空に向はんとするのである。私は威儀を正した。

天地の初發の時、高天原に成りませる神の名は、天之御中主神、次に高御産巢日神、次に神産巢日神、此の三柱の神は、竝獨神成り坐して、身を隠したまひき。……

私の心の奥から古事記が誦み出されてきた。もうここでは、大學も中庸も老子も、般若心經も、法華經も舊約も新約も浮ばないし、ふさはない。古事記の言葉のみである。ここでこそ、古事記の言葉が眞のひびきをもつて誦み出されてくる。この極には、宇宙生命根源のエネルギーが、神の靈氣が、高く強いリズムを生じてなりひびいてゐる。眞言がある。そのリズム韻律の高い波長が 大和言葉となつて、古事記のはじめに記されてゐるのである。ヨハネ傳にある。

太初に言ありき、言は神と偕にあり、言は神なりき、この言は太始に神とともに在り。萬の物これに由りて成り、成りたる物に一つとして之によらで成りたるはなし。……

この言である。根源生命のエネルギーがリズムを生じ韻律となる。これは神自體であり、すべての物はこれより生じる。「こと」は「いのち」であり、その現はれが「は」である。言が言語となり、話となる。眞實なる宇宙の事實が靈動し、眞實なる誠なる人、民族の靈覺に受理せられて神話となつて表現せられる。古事記のはじめは、その眞實なる宇宙の事實が記せられてゐるのである。

この太極の北極にあつて、私の全身全靈が、ここに靈動する生命の高く強い韻律に感應して、古事記の言葉が誦し出されたのも當然である。私は、天地の初發の時―から、八尋殿を見立てたまひき。までの神代七代の言葉を幾回も幾回も誦したのであつた。

あなかしこ 北の極の空にありて

唱へまつるも 古事の記

第一章

農の哲學的考察

第三節 農本生活 第二項 本末關係

菅原 兵治

自然と人間

自然が本で人間が末である。生物進化の所論よりするも、人間は最も「末」の發生である。だから吾々人間は肉體的にも或は礦物界より、或は植物界より、或は動物界より、常により「本」なるものから其の榮養を得てゐなければ生存し得ない。精神的にも亦然りで、吾々が人間の間のみに生活してゐると、何時とはなしに浮騒に走つて心にゆとりと落着きとが無くなるものである。

人間は草木の頂きに咲き匂ふ花の様なもので、本からの榮養を斷たれたのでは生命の持續が出来なくなる。昔から山水膏肓、煙霞痼疾（自然に親しまずにはゐられぬ病氣）といふ語さへある程で、東洋人は殊に自然に深く親しんで來た。近來都會人の間に避暑とか避寒とか、キャンプとかハイキングとかいふ名の下に、都塵を避けて深く山水の間に入ることが行はれて來てゐるが、要するに近代都市が餘りにも自然より遊離して人間の巷になり過ぎてしまつて、——換言すれば本から離れてしまつて——末の「人間」の作つた生活のみでは耐へられなくなつたのに對する救済の方途であらう。

かう考へて來ると、朝夕自然の中に生活する農村人は其の生活がそのままで満足があり安定があるわけである。然しそれには矢張りさうするだけの自然を深く味ひ樂しむに足る眼が農村人に開けて來ねばならぬ。王陽明の詩にいふ。

一たび家を移して 紫烟に入りてより

深林棲むこと久しうして 遂に年を忘る

山中道ふこと莫かれ 供給無しと

明月清風 錢を用ゐず

山中假令人間の作つた市場の商品—ビールやサイダー等の供給無しとも、錢を用ゐずに觀賞し得る明月清風の趣が解し得られるやうになりたいものである。

猶近來の所謂科學の進歩に伴ふ人間の誤れる自負は、遂に「文明とは人間が自然を征服することなり」などいふ考へを抱かしむるに至つてゐる。然し少くも農道生活に於ては、もつと自然と人間とを一體的に見て、むしろ謙虚なる證悟より、人間が自然に仕へて行くといふ態度になつてこそ行かねばならぬことと思ふ。大地に對する仕事—仕へる事の眞意は此處に存するであらう。此の點農業の本質に就いて私共は再び東洋的反省を要する時である。（後章仕事の本義參照）

むすびの里を訪問して

三浦 夏南

年も明けて昨年のこととなるが、十二月十九日、二十日の二日間、明治神宮武道場至誠館元館長荒谷卓先生の設立された「國際共生創成協會熊野飛鳥むすびの里」を訪問した。詳しい報告は機關誌にて發表させていただく豫定であるが、強く印象に残ったことを此處に書き留めて置きたいと思ふ。

荒谷先生にお會ひして、開口一番頂いた質問が、「三浦さんは禊をされませるか。」である。それは先生が、いつも禊を嚴修されてゐる熊野の荒々しい川へと案内して下さつてゐる途次であつた。恥づかしながら、小生は禊の實修まで到達してゐないが、先生の語調から先生が禊を重要視されてゐることが感ぜられた。冬に禊をすれば、體の感覺が全て無くなるほどの冷たさと言はれるその川と、川邊の荒々しい岩群を眺めながら、「次は禊か。」と心に一人思つた。後で先生から色々といふと、先生が神道を深く學ばれたのは今泉定助先生を通してであつた。今泉定助先生の門下に國井道之氏といふ稀代の武道者が居り、鹿島神流の達人であられた。荒谷先生もまた鹿島神流を修めた武道の達人。鹿島神流の縁から今泉定助先生の御著書に親しむやうになられたといふ。今泉定助先生は川面凡兒翁かわづらぼんじに學ばれた人。川面先生は明治以後衰頹傾向にあつた神道の禊を中心とする行を再興した神道の大家である。明治の近代化を経て、常識化し、習俗化しつゝあつた神道に生命の息吹を吹き込まうと行の研究と實踐に勵まれた川面先生、今泉先生の道統を引き繼がうと努力されて居るのが荒谷先生である。智識の神道、習俗の神道ではなく、信仰の神道、體現の神道へと學びを進めて行かなければならない。先生から強く勧められた『今泉定助先生研究全集』全三巻を歸宅後すぐに購入し、只今研究を進めてゐる最中である。月報にも少しづつ書きたいと考へてゐる。また、新年に参拜した石鎚神社でも禊の會が開かれてゐるとのこと。この一月より参加しやうと思ふ。

先生から繰り返し教へて頂いたのが、體驗することと、體現することの重要性である。先述した禊がさうであるし、我々が取り組みつつある農業も武

道も同じである。また、三間村塾の復活といひ、勤皇村再建といふ。理想を描くことは誰でも出来るし、皇道に基いた自治と、其處からの人物の輩出が我が國にとつて必要不可欠なことは志ある者は皆叫んでゐる。然しながら、それを實際に體現するものは少なく難しい。大言壯語しても一族はもとより、一家さへ統合できてゐないのが、現在の實情である。日本人のどこかに無理だといふ意識がこびりついて離れないでゐる。ここに風穴を開け、希望の道を拓くには、それを體現し、實際に目前に見せるより他ない。現實に日本精神を生き、大和魂を生活の中に行じつつある楠木一族、菊池一族のやうな勤皇一族があれば、日本の青年は覺醒し、喜び勇んで各地に自治を確立して行くだらう。その理想の體現者の先驅けの一つとならむとするのが、三間村塾の體現者竹葉秀雄先生の遺志を引き繼ぐ我々ひの心を繼ぐ會なのである。その爲には、智識、思想、イデオロギー程度の日本精神論を潔く去つて、生活と行を根柢とした神道者となることである。その重大な要素として、荒谷先生から禊と武道を教へて頂いた。我々は幸運にもこの二つを學ぶ手掛かりをすでに與へられてゐる。一つは靈峰石鎚であり、一つは竹葉秀雄先生の殘された神道夢想流杖術である。荒谷先生の鹿島神流も氣になるが、先づは土地の縁、道の縁、人の縁に従つて杖術より出發したい。

もう一つ印象に強く残つてゐるのが、結果を求めるあまり、未來の爲に現在を手段化してしまつてはいけないといふ先生のご指摘である。理想を描き、目標を定めることは良いが、今を生きていることを失つてはならない。竹葉秀雄先生も三間村塾は自然に生まれたものであると言つてをられる。神道に即するものは全て、「なる」ものであり、「うむ」ものであり、「むすび」でなければならぬ。これが修理固成の道であり、「造る」世界觀との大きな相違點である。春夏秋冬に順應し、自然に従つてその時々々の仕事を積むことで、食物は自づからに與えられる。斯くの如く、我々の目標も四季の流轉るてんの中で安んじて捧げられた仕事で、自づからに結實した自然の賜物でなければならぬ。武道の世界は一瞬の境に生きるもの。一瞬、一瞬の積み重ねの中に生きて來られた荒谷先生にご指摘頂いたことは有難く、我々にとつて大變感銘の深い

お言葉であつた。特に農業に於ては此の事を痛切に感ずるのである。農業は豫測のつかない自然との闘はりの中で、常に先々の計畫と見通しを立てて行かねばならない。ややもすると、地道な作業による身體の疲れよりも、頭を働かせ過ぎることによる精神の疲れの方が大きくなるのである。古の人々が神々に祈りつつ日々安んじてゐたことが、達人の境涯であることを改めて思ふのである。ペテランの農家さんに聞くと、汗を流しつつ田畑に働き、ふと山や空を眺めながら、次の作のイメージや、來年の計畫が頭に浮かんでくるとは楽しいと言つて居られた。この「楽しむ」段階まで来れば達人である。我々もこの境地に至れるやう、今に集中しながら、経験と體驗を積み重ねて行きたい。

荒谷先生にお會ひして、皇道に基いた農本自治運動が本格的に日本で起り始めてゐることを実感した。これは日本だけの事象ではなく、對立思想を根柢とした近代資本主義體制の頽廢からの解脱を望む世界人類の問題である。荒谷先生は武道を通して海外の方とも親交が廣いが、それを感ずるといはれる。今、日本は世界的な岐路に立ち、未曾有の變革の中へと歩を進めつつある。これから何が起るのか。豫想もつかない未來が待つてゐるかもしれないが、我々は我々に與へられた使命を果すのみである。

とよくも農園だより

三浦 杏奈

新年が明けてもう一月が経たうとしてゐます。農業のことを日々考へてゐると時間を忘れ、あつといふ間に時間が経つてゐることに驚きます。今回にとよくも農園だよりでは、畑の様子に加へ、昨年の末に家を引つ越しましたので、新居の様子も簡単にご報告できたらと思ひます。

昨年暮れに、西條市上市といふところに中古住宅を購入し、義兄夫婦とその息子、主人と私の五人で引つ越しました。畑からも車で五分ほどの距離にあり、かなり大きな倉庫付き物件だったので、農家としては文句なしの家です。引つ越した次の日には、近くの甲賀神社の神主さんに来ていただき、立派な神棚の前で家祓やばらひをしていただきました。毎日家族揃つて早朝と就寝前に祝詞奏上・先祖供養を行ひ、竹葉秀雄先生の「御稜威輝かしめ給へ」を拜誦してゐます。

一日の中にかういつた「行」があると、生活にメリハリが出ると共に家族の一體感が増します。今後もぜひ續けて行きたいと思ひます。

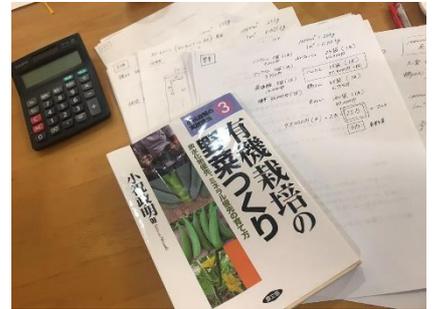
畑の方は、つひにトラクターが手元に來たので、秋野菜の終わつた畑や昨年使用しなかつた畑を耕し、次の春・夏作に向けて綺麗に片づけてゐる状態です。トラクターは意外と難しいやうで、義兄はトラクターの乗りこなし方を摸索中です。棚ごと譲つてもらつたキウイフルーツの木も、おそらく二十五〜三十本あるのですが、今年はとりあへず十本ほどカットバックして復活させることにしました。キウイフルーツは形の悪い物や、完熟したものはキウイジャムにして販賣したり、家でヨーグルトと一緒に食べたりしてゐます。



また、今年から有機栽培に挑戦するため、今は春夏野菜の堆肥や肥料、ミネラルをどれにするかを検討してゐます。熟練農家の方にどういった堆肥・肥料を使用してゐるかお伺ひしたり、実際に堆肥場の見學に行つたりしました。質の良いものを求めながらも、経費との兼ね合ひを考へ、収量や販賣先の見込みをつけることは、豫想以上に頭を悩まし、三浦家一同知恵を出し合ひ、より私たち家族に適した農業の形を摸索してゐます。

今年の二月で、私たちが農業を始めて一年が経ちます。がむしゃらに走り抜け、「あの時からすれば良かった」と思ふことのでした。農業は半年、一年前から先のことを考へ、段取りを考へておくことがいかに大切かこの一年で身に沁みました。毎日頭も身體もフル回転の忙しい中でも、天地自然の神々への祈りの氣持ちを忘れず、謙虚な姿勢で二年目も精進していきたいと思ひます。

お断り
先月號より掲載してゐる『土居清良』の感想ですが、今月はお休みいたしました。來月よりまた掲載して参りますので、よろしくお願ひいたします。



★活動報告

- ・一月二十二日(火) 勉強會『農士道』を開催。
- ・一月二十九日(火) 勉強會『大學』を開催。

★今後の豫定

- ・二月五日(火) 十九時～二十一時 『農士道』
松山市男女共同参畫推進センター☆コムズ三階會議室一―二
(住所：愛媛縣松山市三番町六丁目四―二〇)

- ・二月十九日(火) 十九時～二十一時 『大學』
松山市男女共同参畫推進センター☆コムズ三階會議室一―二
(住所：愛媛縣松山市三番町六丁目四―二〇)

★一燈照隅 萬燈照國

ひの心を繼ぐ會は竹葉秀雄・近藤美佐子兩先生の精神を繼承し、發展させることを目的として生まれた會です。一人の「ひ」の精神が周圍の人々の心に「ひ」を燈し、やがてそれが國を照らす「ひ」になることを願ひ、活動を行つてをります。皆様には何卒ご理解とご支援を賜りますやう、宜しくお願ひ申し上げます。

年會費

- ・一般會員 三千圓
- ・贊助會員 一萬圓
- ・特別贊助會員 三萬圓
- ・支援會員 一萬圓

